



御学校だより

2025年1月30日
藤沢市立御所見中学校
校長 山田 大

1, 2月合併号で遅くなりましたが新年の抱負

～穏やかな年明けを迎え、昨年を振り返り願うこと～

2025年、令和7年がスタートして穏やかな新年を迎え、早1ヶ月が経とうとしています。学校だよりが1, 2月合併号となってしまい、かなり遅い新年のご挨拶となりました。私は、昨年一年間を漢字一字で「幸（しあわせ）」と表しました。年が明けて今年の漢字を思い浮かべたとき『極（究）める』という漢字が思い浮かびました。

私としては昨年一年間を振り返った感想は「幸せ」でしたが、実際に取り組んだことは「探る」ということだったと思っています。御所見中学校の良さ、課題を探り、何をすべきか試行錯誤しながら最適解を探してきました。

そこで、今年は本当に必要なことを「見極める」、今までの有効な取り組みをより高め「究める」ことに取り組もうと考えました。皆さんにとっても大切なことを「見極める」、本当に達成したいことを「究める」一年でありますように願っています。

探 ➡ 幸 ➡ 極(究)



中央委員会での校則改定

～一歩踏み出すこと、ゼロから1を生み出すこと～

1月10日（金）3年生が参加する今年度最後の中央委員会が行われ、校長も参観させてもらいました。一番の議題は「校則の改定」について、ブレザーを着用せずセーターやカーディガンで廊下に出ても良いかを決めるものでした。『あまりそのような場面がなく、改定の必要なし』という意見もあったようですが、『改定』することになりました。

多数決を取れば、「どちらでもいい」という意見が半数を超えると予想されますが、生徒会本部は、あえて「一歩踏み出す」決断をしたわけです。『自分たちの手でよりよい学校を創る』という意味を示したとも言えます。生徒会の説明のあと、最終的には委員の全員一致で承認されましたが、大きな一歩だと感じました。

ほんのわずかな校則の改訂であっても、行動を起こして権利を勝ち取ったことに意義があると思います。さらに、今あるものを改革するのでもいいのですが、皆さんの思い、発想、話し合でゼロから1（イチ）を生み出すことにも挑戦してほしいと思います。

御所見中学校は2027年度に80周年を迎えます。80周年に向けて、生徒が『校則をゼロから作り直す』なんて取り組みが出来たら素敵ですね。



校内研究授業「輝き続ける生徒の育成を目指して」

～対話を中心にして主体的で深い学びの授業づくり～

1月9日（木）の5時間目に1年1組だけを残して「校内研究授業」を行いました。これは藤沢市の中学校教育研究会の取り組みの一環として「御所見中学校の教育活動はどうあるべきか」表題を研究テーマに設定し、教員が研究するものです。

音楽室で石井教諭の理科の授業を行い、他の教員は授業を参観しました。授業内容はプラスチックをキーワードに「紙ストローかプラスチックストローか」というテーマを設定し、ディベート形式で議論し、環境について考えるというものでした。



肯定側と否定側に分かれて、それぞれ「立証」「質疑」「応答」「反駁（はんぱく）」「最終弁論」などのディベートの進め方で自分の主張を訴えたり、相手の主張に反論したりします。発言する人と根拠を調べる人に役割を分担し、チームで力を合わせて主張します。

最終的に傍聴者（ぼうちょうしゃ）となっている他のグループの投票で勝利チームを決めました。参観した先生からは、「みんな頑張っていた」「今後の成長が楽しみ」という声が聞かれたように、「対話を中心にした主体的で深い学び」が実践されていました。

【生徒の感想①】

僕は紙ストローがエコで環境にやさしいと思いましたが、意外にも紙ストローは焼却処分の際にプラスチックストローより二酸化炭素を排出すると知りました。だけど、まだ、紙ストローの方が環境にやさしいと思っています。ディベートで勝つには紙ストローの最強情報が必要だと思います。これを見つけるためにも、『学ぶ』ことがたくさんあると思いました。人間からしたら、紙ストローは味が嫌いな人がたくさんいますが、このような人たちを納得させる力を身につけていきたいと思っています。

【生徒の感想②】

私は否定派だったのですが、紙ストローが嫌いな理由が「ふやけてしまって飲み物が飲みにくいから」という自分的な理由で考えていたので、肯定派の話を聞いて環境のことをよくよく考えて紙ストローを推進していることに気づき、考え方が大きく変わりました。ですが、否定派は変わりませんでした。

他の否定派の人たちの話を聞いたり、調べてみると、やはり紙ストローはデメリットが多いことや、紙ストローの「環境にやさしい」のみの主張に対して、「プラスチックストローはメリットがたくさんある」ということを知ったからです。そして私的にも、子どもはストローが曲がる方がいいと思うし、紙ストローを扱っている企業も紙ストローを取り下げているという現状もあるので、やっぱりプラスチックの方がいいと考えました。

けれど、周りでプラをたくさん使っている代わりに、私たちもプラをなるべく使わない工夫をした方が良いと思いました。例えばエコバッグを持ち歩くや、ポイ捨てしないでゴミ箱へ分別するなど、たくさんの工夫・方法があるので、できる範囲でみんなが協力出来ればいいなと思いました。そうすれば、プラスチックを使っている分も削減できると思います。

【生徒の感想③】

結局は人々に環境問題を知ってもらう、行動してもらう事が一番だと考えた。はじめは紙ストローにしているのは、ストローのゴミを減らすことが目的だと思っていた。だけど、プラスチックも捨てたあとをしっかりとやれば環境にやさしい、紙ストローは作れば作るほど不足気味の木がなくなっているのがわかった。だけど、それだと紙ストローは良いところがないと思ったが、プラスチックがしっかりと捨てられないときもあり、しっかりと捨てられないから紙ストローの方が環境に良いと思われているのが現状。これから、紙ストローを通じて環境について行動する人が増え、「プラスチックでもいいよね」という世界になればいいなと思った。

【生徒の感想④】

プラに比べ紙の方が温室効果ガスの排出が1/2や絶滅危惧種について詳しく発言しました。でも、思ったより時間が少なかったり、相手が言っていることが難しく全然理解できなかったのも、途中はあきらめました。環境問題について主に海のことを言ったが、「ストローだけでは変わらない」と言われたりと、自分が言った意見がすべて正論で返されてしまったので、自分の調べが足りなかったなと思いました。でも、このディベートでやっぱり紙ストローの方が環境を優先していいかなと

思いました。紙ストローは人々の不満とかもあつたけど、今後の日本についてよく考えると、飲みやすさだったり人ががまんすれば環境問題も少しは改善されると思いました。

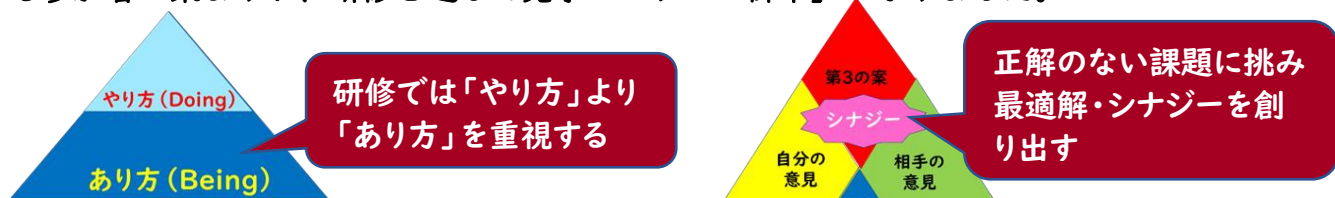
それか、飲みやすさや味の面を考えた上で、人が飲むところだけプラにしたりと色々開発していくのもいいと思いました。飲むところだけプラのやつは、紙ストローにはめる感じにして、それは自分で持つておくことにしたら、誰もそのプラを捨てないのでもいいと思いました。

教員研修 in 「あしがらプロジェクトアドベンチャー21」

～野外教育プログラムで組織力や「ウェルビーイング」を高める～

2024年12月25日（水）冬晴れの中、職員8名が参加して、南足柄市の山の中で研修を実施しました。内容は、体や道具を使ったゲーム（ミッション）のクリアを目指し、メンバーの組織力やウェルビーイングを高めることを目指す、チームビルディング研修です。

この研修では「やり方」：技術的なコツをどう考えていくか（協働作業）も大事ですが、それぞれの「あり方」取り組む姿勢が大事と言われ、とても納得しました。はじめは単なる参加者の集まりが、研修を通して見事に「チーム御中」になりました。



全員の指がリングから離れないようにリングを地面まで下ろす



一人でも指が離れたらやり直し

ジャイアントシーソー



全員真ん中からスタートしてシーソーを地面に着けず左右に分かれる



ニトロクロッシング

ロープにつかまり向こう側へ…

小さな浮島(板)に全員乗れたらクリア



パイプライン

ビー玉を落とさず
自分のレールを通過したら素早く移動
竹のレールで
この缶に入れる

「しくじり先生」が本当に伝えたかったこと

1月7日（火）の全校朝会で、「しくじり先生」として校長の引きこもり経験の話をしていましたが、「引きこもっていた」というインパクトが強すぎて、本当に伝えたかったことが十分に伝わっていなかったようなので、もう一度ここでおさらいします。

- ①人のせいにならない、常に自分を振り返り自分を成長させる
- ②一人で抱え込まず、人を頼り、人と協力する
- ③人柄が大切です、日頃の信頼があれば周囲の助けを得られる
- ④いつでもやり直せる、やり始めるのに遅すぎるということはない



【湘南新人戦（2回戦） サッカー部 12月14日（土）】



【藤沢市駅伝競走大会 12月22日（日）】



【ストップいじめ中学生のつどい in ふじさわ(生徒会本部がリモートで参加) 12月26日(木)】



【校内研究授業・研究協議 1月9日（木）】



【藤沢市クロスカントリー大会 1月11日（土）】



【オペラ教室（2年生） 1月23日（木）】

